

平成 30 年度

京都教育大学附属幼稚園

自己評価実施計画書（案）

1. 本校の基本情報

(1) 学校名	京都教育大学附属幼稚園
(2) 所在地	京都市伏見区桃山井伊掃部東町16
(3) 学級数等	5学級(3歳児1学級、4歳児2学級、5歳児2学級) 収容定員140人(3歳児20人、4歳児30人2学級、5歳児30人2学級)
(4) 児童生徒数	134人(男子64人・女子70人)
(5) 教職員数	園長(併任)1, 副園長1, 教諭5(うち任期付教諭1), 養護教諭1, 非常勤講師3, 事務主査(兼任)1、事務職員2(事務補佐員2), 用務員1(臨時用務員1)

2. 本校の教育目標

『自分で考え行動するこども、想像豊かに遊ぶこども、人・ものと共に生活を創るこども』の育成

3. 京都教育大学附属学校園の目的

教育の実験、実証並びに実習の機関として、本学に附属学校(幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校)を置く。(本学学則第56条)

本学附属学校は、児童、生徒又は幼児に対して、学校教育法に定めるところにより、教育又は保育を行なうとともに、本学における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、本学の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。(附属学校規程第2条)

4. 本校の学校教育計画(年度重点目標)

- (1) 発達の特性に応じた幼稚園教育を推進する。
- (2) 幼児に小学校以降の生活や学習の基礎となる能力を育む。
- (3) 大学や地域との連携を図る。
- (4) 教育実習の環境整備と指導を充実させる。

5. 附属学校園の機能向上に関する取組

- (1) 教育実習指導のより一層の充実及び教育実習の改善を図る。
- (2) 大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究に協力する。
- (3) 地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の成果の公表を図る。
- (4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取組の推進を図る。

6. 本校の特色

教職員全員でティーム保育に取り組み、幼児を育てている。子どもが、子ども時代を子どもらしく過ごせることを願いながら、自分でしたいことを見つけて遊びや生活に取り組むことで自立を図る。また、友だちと力を合わせて遊びや生活を創っていく中で自律の大切さを身につけてほしいと考える。

生き物の継続飼育や栽培活動を保育の中に積極的に取り入れ、幼児が五感を通して直接体験することを大切にしている。そうした体験や経験の連続性が、豊かな学びにつながる保育を創造する。幼小中の学びの連続性を視野に入れ、大学との連携も図りながら、幼児教育の理論や指導方法の実証的な研究、研修を行っている。

平成30年度 学校評価 年間計画（案）

学校名：京都教育大学附属幼稚園

時期	評価の検討と実施等
平成30年 3月	平成29年度学校自己評価実施、学校評価結果及び改善策とりまとめ
4月	平成30年度学校運営方針、重点教育目標等策定
5月	平成29年度学校評価結果及び改善策、平成30年度学校評価項目、平成30年度学校評価年間計画の学長への報告（5月10日期限）
6月	学校評議員候補者の確定
7月	
8月	
9月	
10月	第1回学校評議員会を実施
11月	
12月	学校評価保護者アンケートの評価項目の検討
平成31年 1月	学校評価保護者アンケートを実施 研究協議会参加者にアンケートを実施
2月	教職員アンケート実施 学校評価保護者アンケート分析
3月	学校評価保護者アンケートの結果を保護者に報告 第2回学校評議員会実施 平成30年度学校自己評価実施、学校評価結果及び改善策とりまとめ
4月	平成31年度学校運営方針、重点教育目標等策定
5月	平成30年度学校評価結果及び改善策、平成31年度学校評価項目、平成31年度学校評価年間計画の学長への報告（5月10日期限） 学校評価結果等のホームページ掲載

平成30年度 京都教育大学附属幼稚園 学校評価

自己評価	
A	高いレベルで達成できた
B	達成できた
C	一部達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

① 教育活動その他の学校運営に関する事項 (学校教育法に基づく評価)

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 発達の特徴に応じた幼稚園教育の推進	①新幼稚園教育要領実施に合わせ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した保育計画を立てる。 ②3年目となる、本園の独自研究「幼児の“探究力”を探る」に取組み、幼児の探究プロセスをとらえるとともに、“探究を推進する資質・能力”と「幼児期に育成すべき資質・能力の3つの柱」との関連について検証する。 ③保護者との連携を図り、一人ひとりの園児が個性を発揮できる保育を推進するとともに、保護者との信頼関係をしっかりと構築する。	*	*	*	*
(2) 幼児に小学校以降の生活や学習の基礎となる能力の育成	①幼小連携アプローチカリキュラムの策定に向けて、附属桃山小学校との連携を進める。 ②附属桃山小学校・附属桃山中学校と教育理念や教育方法の連携を行い、教員間の情報交換を密にし、学びの連続性や互惠性に着目した保育を実践する。	*	*	*	*

<p>(3) 大学や地域との連携の推進</p>	<p>①大学と連携し、「グローバル人材育成プログラム」事業に取組み、小学校以降のグローバル人材育成にかかわる実践等の基礎を育む。</p> <p>②本学幼児教育科教員の指導助言を得ながら、幼稚園教育関係者との協働研修を充実させ、公立幼稚園及び本園の教員の資質向上を図る。</p>	<p style="text-align: center;">*</p>	<p style="text-align: center;">*</p>	<p style="text-align: center;">*</p>	<p style="text-align: center;">*</p>
<p>(4) 教育実習の環境整備と指導の充実</p>	<p>①平成 29 年度より改訂した教育実習評価表の検証を行う。</p> <p>②教員間の情報交換を密にして、全教員が一丸となって教育実習生の指導にあたる。</p>	<p style="text-align: center;">*</p>	<p style="text-align: center;">*</p>	<p style="text-align: center;">*</p>	<p style="text-align: center;">*</p>

注) *印の欄は、年度末に記載予定。

平成30年度 京都教育大学附属幼稚園 学校評価

自己評価	
A	高いレベルで達成できた
B	達成できた
C	一部達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

② 附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の 重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己 評価 区分	学校関係者評価	改善策
教育実習指導のより一層の充実及び教育実習の改善 (中期計画 35)	大学の实地教育運営委員会と協働し、教育実習指導や実習評価の改善に取り組む。	*	*	*	*
大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究への協力 (中期計画 36)	①大学の「グローバル人材育成プログラム」事業に協力し、本園において保育実践を行う。 ②本学幼児教育科教員と協働して幼児教育協働研修を実施し、京都府下幼児教育関係者に保育公開を行う。	*	*	*	*
地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の成果の公表 (中期計画 37)	①本園の独自研究を公開する、研究発表会（幼児教育を考える協議会）を開催する。 ②地域や全国の教育委員会、その他学校関係者の視察、参観、及び学生の卒業論文の実験、観察などを積極的に受け入れる。	*	*	*	*
業務改善及び教職員の働き方に関する取り組みの推進 (働き方改革)	①校務の効率化、情報化を推進するとともに、学校行事や教職員の役割分担を見直し、学校業務の適正化を図る。（仮）	*	*	*	*

注) *印の欄は、年度末に記載予定。